

# 我が講について

戸田市新曾馬場講 講元 小山 億一

私たちの街は埼玉県の最南端・戸田市新曾であり、荒川を隔て東京都板橋区に隣接しております。現在の戸田市は世帯数五万二千戸、人口約十一万七千人であります。私が生れた頃は戸田村で、町制施行が昭和十六年、戸田市施行は昭和四十一年でありまして、本年は市制施行四十周年を迎える年であります。

一時中断し、昭和三十年に私の父・利左エ門が講元として五十名により再開しましたが、残念乍ら代参は行いませんでした。そして昭和三十七年に三十二名により代参を再開して以来、毎年代参を続けしております。代参は五年ごとに組替えし、代参者の決定は抽籤により決めております。

四名各位のお力添、さらには講中各位の御盡力とによるものと深く感謝しております。さて余談ですが私共が毎年五月下旬の代参の節、山のケール駅を降りますと、緑に包まれた山間から鶯の鳴声が実に美しく耳に入りまして、全く自然の恵みが満喫できます。

ことは何よりの楽しみですが、之からも命のある限り代参を続けさせて頂きたいと念願しております。

尚我々年輩の者が若干心配しておりますことは、これらの若者がどれだけ神様に対する認識が有るか、またこれからどう求めてゆくかと懸念するものであります。これは余計な心配かも知れませんが、最後にありますが我が講がお世話になっておます「宝寿閣」の当主馬場猛仲氏の姓と、我が郷土馬場町が奇しくも同じであることも何かの縁であり、これからも末永く御交誼の程お願い致しますとともに、伝統ある神社の宮司様方の方の御奮闘と神社の御繁栄をお祈りして、誠に拙文ですが筆を止めさせて頂きます。

さて我々の御嶽講は、古文書には天保七年の記録があります。その後私の祖父・磯太郎が講元として昭和四年に二十四名にて、御嶽神社主幹宮司の馬場室一氏と再度講結びました、と代参帳に記されております。それによりまして、昭和四年から同十一年までの八年間毎年代参が行われていたようです。

昭和五十年に父が没してから私が講元を引継いで、毎年前例により一年おきに宿泊、日帰り代参をさせて頂いております。そして、平成十五年には九名の代参により太々神楽を奏上させて頂きました。

以上の如く昭和四年に祖父が講結び以来、実に七十七年の永きに渉り講の運営ができましたのは、歴代宮司様の御指導と当講世話人



（小山 億一）

## 日の出祭



五月七日 宵宮 祭典 午後七時半  
神幸 午後八時半

夕闇の中、絹垣に守られながら御霊代を奉戴し、蔭燈を照らし御旅所までの道のりを神幸の行列は肅々と進みます。

お泊まりいただくこの幽玄な行列をご覧いただけます。

八日 本祭 行列 午前十時（御岳平出発）

神輿を中心に鎧武者三十名が警護し、神職に御旗や盾などの威儀物を持った行列が約一時間かけて神社まで参進する。稚児も加わり賑やかで賑やかな行列です。ぜひお越し下さい。

このお祭りでは行列で神輿の警護をする鎧武者としてご参加いただく方を募集しております。ご参加いただいた方には御神札と魔除守護弓矢を授与致します。またお供として行列に加わることを供奉といい、大変ご利益があるとされています。



供奉を御希望の方は供奉料を添え「住所・氏名」を記してお申し込み下さい。稚児を御希望の方も社務所迄ご連絡下さい。

供奉料 三千円・五千円・一万円以上

鎧武者参加料 五千円

稚児参加料 一万円（貸衣装代込）

## 大祭の一般参列（昇殿参拜）



当社では、年三回の大祭のうち、春季大祭（三月八日）・日の出祭の宵宮（五月七日）・秋季大祭（十一月八日）に一般の方々もご参列いただけるようになりました。

神楽（巫女舞）も舞われ、古式ゆたかな祭儀です。

参列料一名千円

三月八日の春季大祭には、招待者や一般の方々七十名程が参列され、金井孝雄氏よりご奉納いただきました本装束により、浦安の舞が奉奏されました。（写真）

## 日供祭

毎朝七時頃神様に神饌をお供えしておりますが、一般の皆様にもご参列をいただけるようになりました。

ご希望の方は宿舎にご相談下さい。

参列料一名五百円

## 峰中修行

滝行、山懸け、鎮魂行法など、都会の喧噪を離れ自分自身を見つめ直しはいかげでしょうか。本年は七月十九日（海の日）に日帰り修行も計画しました。例年の六月、九月一泊二日もふくめ詳細は社務所へお問い合わせ下さい。